

ハ イ ド ロ エ ー ジ ー プ ラ ス

**富士フィルム独自の抗菌技術「Hydro Ag<sup>+</sup>」を活用した  
環境清拭材「Hydro Ag<sup>+</sup>アルコールクロス/スプレー(80%)」  
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)の感染抑制効果を確認**

2020年11月16日

富士フィルム株式会社(社長:助野 健児)は、当社独自の抗菌技術により除菌効果が長く持続する環境清拭材「Hydro Ag<sup>+</sup>(ハイドロ エージープラス)アルコールクロス/スプレー(80%)」について、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)に対する効果確認のための評価試験において、99%以上のウイルスを不活化したという結果を得ました<sup>※1</sup> のでお知らせいたします。本評価は、帯広畜産大学との共同研究の一環で実施いたしました。「Hydro Ag<sup>+</sup>アルコールクロス/スプレー(80%)」を用いた環境清拭を継続的に実施することで、SARS-CoV-2の感染抑制効果が期待できます。

**「Hydro Ag<sup>+</sup> アルコールクロス/スプレー(80%)」について**

独自の抗菌技術「Hydro Ag<sup>+</sup>」により銀系抗菌剤と室温で硬化する超親水ポリマーがアルコール溶液中に安定的に分散されています。本製品を使用すると、対象物がアルコール除菌されるとともに、対象物の表面に銀系抗菌剤を含む超親水コーティング層が形成され、アルコールが蒸発した後も除菌効果が持続します。本製品は医療や介護の現場、一般家庭における環境清拭用途として多くの方にご活用いただいています。

**「Hydro Ag<sup>+</sup> アルコール 80%」**



スプレー(480ml)



クロス(100枚入)

**【評価試験の概要と結果】**

「Hydro Ag<sup>+</sup>アルコールクロス/スプレー(80%)」の液剤を、それぞれ20回・40回・60回<sup>※2</sup>塗布した3種類の試験フィルムを用意し、塗布20日経過後に以下の評価を実施しました。

試験フィルムの液剤を塗布した面にSARS-CoV-2液を滴下し、その上に無加工のフィルムを被せて密着させ、室温で24時間静置。その後、SARS-CoV-2液を回収し、感染力を持つウイルス量の指標であるウイルスカ価(りきか)<sup>※3</sup>を算出。試験フィルムに滴下したSARS-CoV-2液<sup>※4</sup>と、試験フィルムに滴下せずに室温で24時間静置したSARS-CoV-2液のウイルスカ価を比較し、「Hydro Ag<sup>+</sup>アルコールクロス/スプレー(80%)」の液剤を塗布した試験フィルムのウイルス不活化を評価しました。

<評価結果>

**液剤を 40 回および 60 回塗布した試験フィルムは、塗布 20 日後に 99%以上のウイルス不活化が認められた。また、液剤を 20 回塗布した試験フィルムでも、塗布 20 日後に 86%以上のウイルス不活化が認められた。(表 1)**

(表 1) 塗布 20 日後の「HydroAg<sup>+</sup>アルコールクロス/スプレー(80%)」に対する SARS-CoV-2 不活化評価結果<sup>※5</sup>

Hydro Ag <sup>+</sup> 塗布回数	20 回	40 回	60 回
ウイルス不活化率(%)	86.67%	99.76%以上	99.90%以上

この結果から、たとえば、Hydro Ag<sup>+</sup>アルコールクロス/スプレー(80%)」で一日 2 回の清拭を継続すれば、対象物の表面に銀系抗菌剤を含む超親水コーティング層が日々塗り重ねられ、10 日後には 86%以上のウイルス不活化効果が出始め、20 日後には 99%以上のウイルスを不活化することが期待できます。

富士フィルムは「Hydro Ag<sup>+</sup> アルコールクロス/スプレー(80%)」を用いた環境清拭による新型コロナウイルス感染の低減活動を積極的に提案し、人々の生活の質の維持・向上に貢献していきます。

※1 ウイルス不活化率は塗布条件による。塗布条件は評価試験の概要に記載。

※2 1 回の塗布量は 400cm<sup>2</sup> の試験フィルムに 0.96ml(「Hydro Ag<sup>+</sup>アルコールスプレー80% 480ml」1 プッシュ相当)。

※3 ウイルスカ価(ウイルス感染価)は、試料中に含まれる感染力を持つウイルス量のこと。対象群と比較した際のウイルスカ価の減少率=ウイルス不活化率。

※4 試験フィルムと反応させた SARS-CoV-2 液のウイルスカ価は 5.75 log<sub>10</sub> TCID<sub>50</sub>/ml。

※5 2020 年 10 月 21 日に国立大学法人帯広畜産大学にて実施した「富士フィルム製品の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に対する不活化活性の検証実験」の結果より。実験室内の限定された条件下での結果であり、実際の使用現場での効果を示すものではない。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係 富士フィルムホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部 広報グループ

TEL : 03-6271-2000

その他 富士フィルム株式会社 メディカルシステム事業部

TEL : 080-2675-4336